

平成31年度 学校経営計画

1 めざす学校像

教育目標

憲法及び教育基本法の精神に則り、学園がこれまで築き上げてきた「人間尊重」の歴史に学び、現代社会を強く生き抜く人間を育てる為、教育目標を次のように定める。

- 1) 民主的な社会の形成者として必要な基礎学力を培う。
- 2) 仲間とのふれあいの中から、明るく豊かな心と創造性を養い、主体性と個性豊かな人間を育てる。
- 3) 生きる強さと人間的優しさを備えた心身共に健康な人間を育てる。
- 4) 他国の人々の文化や生き方に学び、広い視野に立って、地球環境と平和を守るために、世界の人々と協力できる人間を育てる。

2 教育目標を実現するために(中期的目標)

1 経営基盤の確立

持続的・継続的に安定した学校運営ができるために、健全な財務状況の確立を目指す。

- a) 教職員の採用・人事配置・定数管理等、適正に管理する。
- b) 労働条件等について随時労使で検討し、より良い労働環境を追求する。
- c) 電力削減やペーパーレス化など、経費意識を持たせ、環境にも優しい学校を目指す。

2 教育内容の充実

「行きたい」「行かせたい」と言われる、地域に信頼され、誇りとされる学校にするため、教育内容を充実させる。

① 基本的な教育内容の徹底及び教職員の資質向上

- a) 将来の自立に向け、基本的な生活習慣の確立、マナー意識、規範意識を育む。また、誰にでも挨拶ができ、男女や年齢に関係なくコミュニケーションがとれる生徒を育成する。
- b) 課外授業や試験前補習、自習室の開設など、生徒の学習を積極的に支援する。
- c) 中堅進学校としての大学進学実績の向上をめざす。4年制大学への進学率を75%以上に、国公立大学や難関私立大学、中堅私立大学、さらには志望の多い看護・医療系、薬学部への合格実績をあげる。そのために、目標達成に向けて努力する態度を養い、志望校合格に向け最後まで挑戦する姿勢・意欲を生み出しサポートする。
- d) 大学進学実績向上のためにも、英検やNEWS検定、GTECといった検定に積極的に取り組むと共に、実力テストの事前・事後指導と分析をきちんと行う。
- e) 生徒による授業評価アンケートを継続実施し、教員の指導力・授業力アップにつなげる。
- f) 文化行事や講演会を企画し、情操教育の充実を図る。
- g) 租税教室や税の作文への参加を通して、税と社会基盤整備の重要性について学ばせる。
- h) 中学では「道徳教育」について教授法や評価方法などについての研修を行い、担任がきちんと授業を展開できるようにする。また、生徒には他者を思いやり円滑な人間関係の構築ができるよう支援し、人権を尊重する意識を育成する。
- i) いのちの授業の一環として、がんについての正しい知識と予防を学び、生きる力を高める。
- j) 新指導要領実施への準備を本格化させる。運営委員と教務部が中心となり、教員全体への情報提供と編成に向けての議論をスタートさせる。
- k) 「総合的な探求」の時間について、今後二年間の授業の流れとテキストについて検討する。

② ICT化の推進

- a) 生徒の活動をポートフォリオ化するために、ICT機器を用いてデータを蓄積する。
- b) 教員用小型モバイルと生徒用実習向けモバイルの採用について検討を進める。
- c) 登下校時の安全を図るために携帯・スマホの校内持ち込みを許可し、使い方のモラルとマナー指導を強化する。一方で学習活動にも教員の管理下で有効に活用することを視野に入れて指導にあたる。
- d) オンライン英会話を全学年・全コースの生徒で実施する。
- e) 全教師WiFi化を推進し、必要な設備工事を実施する。

③ 国際化の推進

- a) 中学・高校を問わず、海外の学校との交流を図り、たくさんの生徒が交流に関われるようにする。本校の生徒を積極的に海外へ送り出し、海外での生活を経験させる。
- b) 高校の海外修学旅行の方面を増やす(ヨーロッパ2方面と台湾)。それぞれのコースは費用と特色に変化を持たせ、多様なニーズに対応できるようにする。

④ 学校の環境整備

- a) いじめ対策として、教員には、策定済みの「いじめ対策基本方針」を再確認。生徒にはアンケートや通報システムにより早期発見に努める。
- b) 新しい教務システムを導入し、成績処理や各種書類作成をオンライン化、仕事の軽減につなげる。
- c) 情報教室のPCやシステムなどの更新を行う。
- e) 特別棟の耐震診断を行うと同時に、今後の使用についての検討を始める。

⑤ 労働環境の整備

- a) 長時間労働を良しとしない職場風土作りと、年間5日以上の有給休暇取得に向けての環境整備を行う。
- b) 社内連絡ツールとしているシステムを利用して、出退勤時間と労働時間の管理を行う。
- c) 各種会議の数と時間の削減を全員で心がける。

⑥ その他

- a) 同じ法人の中・高・大の連携を強化し、法人全体の活性化につなげる。
- b) 募集活動をさらに充実させる。次年度の目標は中学70名高校380名。
- c) 成人年齢引き下げで、高校在学中に成人年齢に達する生徒が存在するようになる。「主権者教育」と「消費者教育」の実施。
- d) 創立100周年に向け、ビジョンの策定及び準備を始動する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年1月実施分]	学校協議会からの意見 (実施：令和2年2月)
<p>今年度は、例年になく外部評価が高かった。昨年は、否定的な評価が15%以上の項目が10項目あったのが、今年は4項目となり、またその数字もきわめて低いものとなった。大きな重点目標が変わることから、個々の項目も変更されているが、概ね外部の方には満足頂いているように思う。内部評価に関しても、全体的に高い評価の項目がほとんどで、目標にそって運営が行われていた数値となった。</p> <p>そんな中で、保護者の方からは、学校との連絡を密にできているか、また指導内容の共有ができていないかについては、少し厳しい評価をいただいている。これについては、共働き家庭が増えてなかなか学校からの連絡がつかないケースが多く、一概に教員を責めるわけにはいかないが、今後は携帯電話による連絡からネットを利用したもので、確実に連絡が届くシステムへの移行で解決できる部分と、実際に会ってお話ができる懇談の機会を増やすことで解消していかねばならないと感じる。</p> <p>次年度は、学習指導要領の改定、大学入試制度の改革初年度と大きな動きがある年である。今一度学校運営を見直し、創立100周年への具体的な一歩が踏み出せるようしっかりと準備を始めたい。次はもっと高い評価をいただけるよう、教職員が心を合わせ、重点目標を常に念頭に置き、学校運営を行っていかねばならないと思う。</p>	<p>今年度は大きな自然災害や施設工事がなく、大過なく過ぎた1年だったように思う。校内の施設整備は順調に進み、生徒達は快適な学校生活を送れていると感じる。ただ、校内には老朽化が進む建物や施設があると聞いているので、それらについては順次計画通り改善して欲しい。</p> <p>学校評価アンケートの結果を見ると、内部外部共非常に高い結果となっており大変喜ばしいが、やや否定的な評価が何年も継続している項目については、根本的な見直しをしていただく必要があるのではないかと。内部において議論をお願いする。</p> <p>学校がより魅力的になるには、生徒の満足度をあげていかなければならないが、これは単に生徒のご機嫌取りのような運営をするのではなく、生徒が自身で成長を実感できるような教育が行われるかどうかであろう。すべてのコースでとはいえないだろうが、「文武両道」を理想とする生徒も多いので、バランスのとれた人間に成長できるよう、これからも指導をしていただきたいと願う。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 経営基盤の確立	人事の活性化と教員の定数管理・労使の連携・省エネ	① 専任教員の年齢バランス、常勤・非常勤講師の数的バランスを考慮し、採用計画を立てる。 ② より魅力ある学校作りのための人事や時間配当を行う。 ③ 労使双方より代表を出し合い、労働条件についての協議を行う。 ④ 省エネに務め、経費節減を行う。	① バランスのとれた人事配置により、校内が活性化するか ② 人件費率が60%以内に収まるか ③ 「給与関連検討委員会」を継続的に開催し、より良い労働条件を見出せるか ④ 電力費、用紙代を20%削減できるか	① 新しい校務分掌に積極的にチャレンジする教員、そうでない教員が相半ばで、活性化したかは微妙である【△】 ② 60%を下回り、かつ賞与もアップできた。【◎】 ③ 会は継続的に開催できたが、なかなか進捗度が上がらなかった【×】 ④ ペーパーレスを奨励したが、電力消費量は変わらず【×】
2 基本的な教育内容の徹底	基本的な生活習慣の定着をはかり、進路指導を充実する。・新指導要領など次の教育内容に向けての準備を行う。	① 時間厳守を身につけさせるために、生徒指導部を中心に、五分前行動の徹底と「遅刻0週間」の設定。遅刻の多い生徒には、生徒指導部長・教頭からの説諭。 ② 進路ガイダンスの実施時期や内容について検証し、より効果のあるものにする。 ③ 高Ⅲでは実力テスト受験の対象生徒と回数を拡大し、AOや指定校に頼らない進路実現を促す。 ④ 新指導要領実施にむけての準備。 ⑤ 「総合的な探究の時間」についての具体的な内容の検討。	① 遅刻者数を平成31年度終了時には、前年度比10%の減少を図り、また、生徒自治会の活動の一環と位置付け、委員会活動の活性化を促せるか ② 保護者向け進路ガイダンスの参加者を2割増できるか ③ 公募制と一般入試受験の生徒が3割増できるか ④ 指導要領検討プロジェクトチームを組めるところまで、議論が進むか ⑤ 「総合的な探究の時間」についての題材やテキスト、授業案が確立できるか	① 遅刻者数は横ばい。減少までは届かなかった【△】 ② 保護者の参加者増は学年によって異なる【△】 ③ 受験数はほぼ横ばいだが、合格者数は減少【×】 ④ チームまでは結成できず、教務委員会レベルでの検討に終わった【×】 ⑤ 「探究の時間」については、系統立てた授業が実施できた【○】
3 ICT化の推進	携帯電話を中心とした情報機器の取り扱いについてのモラルとマナー指導の徹底	① 2020年度の大学入試改革を睨み、生徒の活動のポートフォリオ化を実施、日々の学習状況や実力テストの結果も合わせて、システムを用いて保護者と共有する。 ② 教員用のモバイルについて検討を始める。 ③ 全学年全コースでオンライン英会話が実施できるようネット環境の整備を行う。 ④ 学校内に携帯電話の持ち込みを許可することは必然となった、一方でSNSなどの不適切な使用については、大きな社会問題となっている。現在情報の時間で取り扱っているモラルとマナー指導を、折にふれ全校的に実施していく。 ⑤ 全教室のWiFi 化工事を推進し、ICT活用環境を整備する。	① ポートフォリオ化するためのソフトの研修会や学習会を行い、教員全体が使いこなせるようにできるか ② 全学年で、毎学期にオンライン英会話を実施できるか ③ 携帯電話に関して策定した生徒指導のルールがスムーズにかつ有効に機能するか	① 学年毎の研修会が行われ、知識・技術の共有ができた【◎】 ② 全学年毎学期までは行えなかった【○】 ③ リテラシーに関しては、折にふれ啓発したが、複数の学年でマナー違反や不適切な使用があり、充分効力を発揮したとは言い難い【△】
4 国際化の推進	すべての生徒が海外の生徒と触れ合う機会の確保と異文化への理解を深める。	① 中学・高校共積極的に海外交流を受け入れる、逆に短期の語学研修にできるだけ多くの生徒を参加させる。また、海外大学への進学希望者への情報提供とアドバイス・合格指導を実施する。 ② 従来、オーストラリアと台湾、二方面の高校修学旅行を、ヨーロッパ2方面と台湾の計3方面から選択できるようにする。それぞれに特色を持たせ、生徒の多様なニーズに応えられるようにする。	① 中学・高校共、年間3回以上の交流を実施できるか ② 交換留学生が3名以上。カナダ語学研修15名以上、フィリピン語学研修10名以上の参加があるか ③ 台湾修学旅行は150名以上、ヨーロッパ2方面のうち、語学研修中心のマルタ方面に50名以上の参加希望者が出て実施できるか	① 今年度は来日する海外の学校が減った中、中学では3回以上の交流が実現した。高校は未達【○】 ② 交換留学生は4名、カナダ語学研修は名、フィリピン語学研修は名の参加【○】 ③ 各方面の希望人数は、台湾58名・マルタは43名イタリア315名で実施する。台湾の希望者が予想の半分と残念な結果となった【△】
5 労働環境の整備	働き方改革に沿って、より良い環境整備を行う	① 年間五日以上の有給休暇取得に向け、労使で話し合い、全員必ず取得できるよう整備する。 ② 管理職は、長時間労働を良しとしない職場風土作りと時間管理を行う。 ③ 会議の精選と、時間を区切った会議を全員が心がける。	① 教職員全員が5日以上の有給休暇を取得できるか ② 長時間労働の教職員に対し、管理職が実態を把握し、労働量が適切であるかのチェックをし、声掛けができるか ③ 会議時間を10%短縮できるか	① 全員が5日以上取得できた【◎】 ② 年間を通して徐々に「働き方改革」の趣旨が浸透し、意味のない残業は減少した。労働量は適切であると判断している【◎】 ③ すべての会議で実施できていないが、時間短縮の意識は高くなったという感触はある【○】
6 その他		① 同一法人内での中・高・大を連携をさらに進める。 ② 募集活動を充実させ、目標数を獲得する。 ③ 成人年齢引き下げに対応する「主権者教育」と「消費者教育」の実施する。 ④ 学園の創立100周年に向けての準備を始める。	① 現在実施されている連携に加えて新しい連携事業をスタートできるか ② 中学70名高校380名の新入生を獲得できるか ③ 「主権者教育」と「消費者教育」が実施できるか ④ 「100周年準備委員会」を立ち上げられるか	① 新しい連携事業はスタートできなかった【×】 ② 中学68名、高校名の新入生を迎えられた【○】 ③ 地歴公民科の授業を中心に、実施できた【○】 ④ 法人レベルでは発足できたが、校内的には準備できなかった【△】